

Q06b IRTS による $155 \mu\text{m}$ Continuum の観測 III

奥村健市、廣本宣久（通総研）、奥田治之、芝井広、中川貴雄、巻内慎一郎（宇宙研）、
松原英雄（名大理）

軌道赤外線望遠鏡 IRTS に搭載された遠赤外線ラインマッパー FILM による $155 \mu\text{m}$ Continuum 観測の結果について、95 年秋季および 96 年春季年会に引き続き報告をおこなう。

銀経 50 度付近の銀河面では、FILM $155 \mu\text{m}$ Continuum 強度分布は IRAS $100 \mu\text{m}$ マップと全体的によく一致している。H II 領域を除く熱平衡ダストの温度は、ダストの放射率が $\beta = 2$ の場合 16 ~ 17 K となる。この温度の分布は、銀緯 ± 5 度以内の銀河面においてほぼ一定で、銀緯および銀経に対する温度依存性は見られない。

観測からもとめられるダストの温度や温度分布を説明するために、簡単な 1 次元 cloud のモデルを仮定して ISRF の強度を計算した結果、観測される温度は太陽系近傍の約 8 ~ 20 倍の ISRF が、銀河面に一様に存在することによって説明することができる事がわかった。

本講演では、これらの結果に加え、銀経 0 度および 180 度付近の銀河面について行った解析結果についても報告をおこなう。そして、熱平衡ダストの温度の銀経分布等について議論する予定である。